

## 船舶事故調査報告書

平成28年9月8日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成27年7月17日 16時50分ごろ
発生場所	沖縄県久米島町兼城港南西方沖 兼城港第1号灯標から真方位289°120m付近 （概位 北緯26°19.8′ 東経126°45.2′）
事故の概要	遊漁船あかね丸は、北東進中、乗り揚げた。 あかね丸は、船底外板の擦過傷等を生じた。
事故調査の経過	平成27年7月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 あかね丸、9.1トン ON2-0859（漁船登録番号）、個人所有 13.55m×3.26m×1.04m、FRP ディーゼル機関、356.72kW、平成13年4月23日 第296-21450号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 63歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年12月9日 免許証交付日 平成23年12月20日 （平成29年12月8日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底外板に擦過傷、プロペラ翼及び舵板に曲損等
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 3、視界 良好 海象：波高 約1.0m、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客4人を乗せ、久米島南西方沖の漁礁での釣りを終え、平成27年7月17日16時00分ごろ兼城港に向けて約10ノットの対地速力で自動操舵により北東進していた。 本船は、兼城港の南西方沖3海里（M）付近に差し掛かった頃、船長が操舵室で渡し板に腰を掛けて前路及び兼城港港口付近を確認した後、居眠りに陥り、16時50分ごろ兼城港南西方沖の干出浜に乗り

	<p>揚げた。</p> <p>船長は、大きな音と衝撃によって目を覚まして乗揚に気づき、釣り客の安否を確認し、機関室を見て浸水していないことが分かったものの、本船が満ち潮と波によって更に乗り揚げたことを認めて自力での離礁をすることが不可能と判断し、付近を航行していた僚船及び所属する漁業協同組合に携帯電話で救助を要請した。</p> <p>本船は、漁業協同組合から連絡を受けた消防本部、僚船等により離礁した後、えい航されて兼城港に入港した。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本事故当時の喫水は、船首約0.5m、船尾約1.5mであった。</p> <p>海図W224(久米島 兼城)によれば、本事故発生場所は、干出浜(さんご礁)である。</p> <p>船長は、本事故発生海域付近の水路を航行して漁場に向かう経験が約20年あり、兼城港港口付近が広範囲に干出浜が広がり、他船の航行が多いので自動操舵から手動操舵に切り替えた操船が必要なことを理解していた。</p> <p>船長は、今までに操船中に眠気を覚ます目的で顔を洗ったり、コーヒーを飲んだり、操舵室から出て外気に当たったりしていたが、本事故当時、何もしていなかった。</p> <p>釣り客全員は、本事故時、本船の船首側甲板上に座っていたが、けがもなく無事であった。</p> <p>船長は、釣り客を乗船させる際、2日以上連続した深夜操業を避けており、15日から16日の深夜にかけて操業を行ったものの、朝方に兼城港に帰港して休養しており、本事故当時、疲れは感じておらず、健康状態も良好であった。</p> <p>船長は、兼城港港口に近づき、自動操舵から手動操舵に切り替えようとした矢先のことで、兼城港付近に航行する船舶がないことを確認して気の緩みで寝てしまったと思った。</p> <p>船長及び釣り客全員は、救命胴衣を着用していた。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、兼城港南西方沖を自動操舵により北東進中、船長が、居眠りに陥ったことから、兼城港南西方沖の干出浜に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、兼城港付近に航行する船舶がないことを確認して気が緩んだこと、及び操縦席に腰を掛けた状態で操船したことから、覚醒水準が低下して居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、兼城港南西方沖を自動操舵により北東進中、船</p>

	長が居眠りに陥ったため、兼城港南西方沖の干出浜に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
<b>参考</b>	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 航行中に眠気を催した場合、椅子等に腰を掛けるなどして楽な姿勢で見張りに当たると居眠りに陥ることがあるので、注意すること。</li></ul>

付図1 事故発生経過概略図

